



学校での多様性教育を実践している  
ほっしー (星野俊樹先生) と 観て語る  
映画「カランコエの花」上映会

photo by Kenji Kagawa

2019年2月2日 (土) 13:30 - 16:00 \*13:00 開場

定員：60名

参加費：500円

鳴門市健康福祉交流センター 3階

鳴門市撫養町南浜字東浜24番地2 (鳴門市文化会館横)

事前申込が必要です

メールでお申し込みください

なるとにし ててて

761024tetete@gmail.com

お名前、学生の方は学校名と学年

などをお知らせください

↓メールの送信はこちらから



ただ、あなたを守りたかった。

カランコエの花

レインボー・リール東京 ~東京国際レズビアン&ゲイ映画祭~ グランプリ受賞

京都国際映画祭 コンテント・イベント・映画部門 グランプリ 新人監督映画祭 中絶部門 グランプリ  
横浜インディペンデントフィルムフェスティバル 中絶部門 グランプリ・チャートベスト賞 TOKYO 同志映画祭 グランプリ  
下記の映画祭 観賞賞・日本映画専門チャンネル賞 うたがらげ映画祭 自主制作映画コンテスト 実行委員会特別賞 はままつ映画祭 観賞賞 他

「てとてとて」は、鳴門市鳴門町・鳴門西小学校区の読み聞かせボランティア「お話チョボラ」を母体に、学校の枠にとらわれず、もっと広い視点で「子育て」を考えることができることを願い2013年に発足しました。

子どもと大人(親)と地域を繋ぐ「てとてとて」は、日常生活の中で親子が共に時間を過ごす中で『親も子ども共に学び共に育つ』学びの場「子育て 親育ち プロジェクト」を始動。毎回テーマに応じた第一人者を招き、子どもにも大人にもより良い学びの場を提供しています。



今回の「子育て・親育ちプロジェクト2018」ー 映画「カラコエの花」上映会

映画「カラコエの花」は、LGBTが抱える問題を、当事者ではなく、周囲の人々の目線から描いた短編映画です。2017年、セクシュアルマイノリティに関する国際映画祭「レインボー・リール東京」でグランプリを受賞し、日本全国の映画祭でも数々の賞に輝いています。現在も各地の劇場で上映が続いており、企業や学校・地方公共団体・民間団体での自主上映会も多数開催されています。

ほっしー(星野俊樹さん)は、小学校の先生です。

「男らしさ」や「ふつう」を求められることに強い違和感や生きづらさをずっと感じてきた自身の経験から、学校にこそ多様性の教育が必要であると強く感じ、小学校での多様性教育を実践しています。ほっしーの「生と性の授業」の実践内容は様々なメディアに取り上げられ注目されています。(※下記参照)

ほっしーと一緒に、映画「カラコエの花」を観て、学校の先生という立場からのお話を伺い、映画を見て感じたことや考えたことをじっくり語り合います。

講師：ほっしー こと 星野俊樹(ほしの としき)さん  
桐朋小学校教諭。1977年生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業。大学卒業後、出版社の編集者を経て小学校教員となる。現在は1年生の担任をしている。多様性教育の実践を現在試行錯誤中。

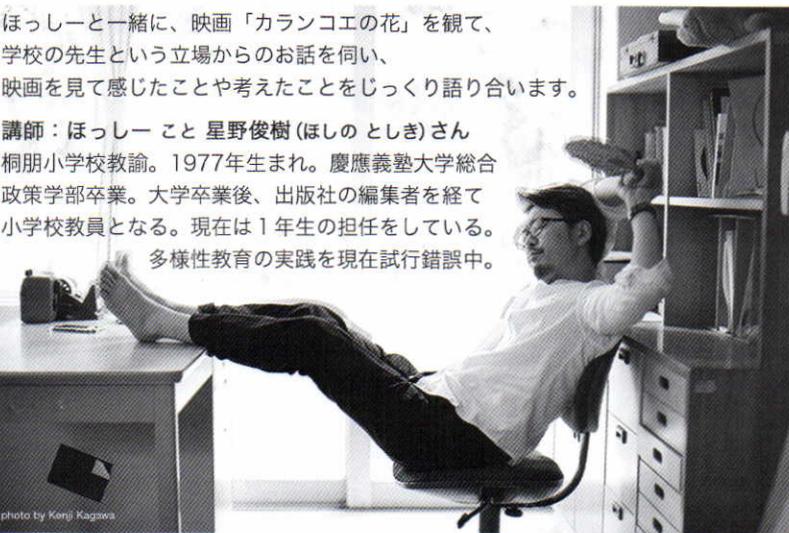


photo by Kenji Kagawa

- あの日、僕や君を救いたかった。「生と性」を小学生に教えた担任の2年間 (<https://www.buzzfeed.com/jp/rumi-yamazaki/life-and-sex-class>)
- あきらめずに火を灯し続けること。学校で多様性を伝えるほっしーの横顔 (<https://palette.lgbt/articles/19187>)

実践の詳細が紹介されている媒体



「うちのクラスにLGBTの人がいるんじゃないか？」

ストーリー

とある高校2年生のクラス。ある日唐突に『LGBTについて』の授業が行われた。しかし他のクラスではその授業は行われておらず、生徒たちに疑念が生じる。

「うちのクラスにLGBTの人がいるんじゃないか？」  
生徒らの日常に波紋が広がっていき…  
思春期ならではの心の葛藤が起こした行動とは…?

解説

近年社会問題として国際的にもメディアで多く取り上げられている「LGBT」。当事者を主とした恋愛や状況を描いた映画は国内外で多く発表されている中、それを「取り巻く周囲の人々」にフォーカスを当てることで、彼らの過剰な配慮によって翻弄されていく当事者を描いた今までにない視点の映画作品。また、それが観客に対するリアルなメッセージとして感動を与え、国内映画祭でグランプリ6冠を含む計13冠を受賞。さらに今若手女優として注目度の高い今田美桜を主演に起用し、等身大の女子高生の心の動きを新鮮な演技で描いた点も見どころとなっている。

脚本・監督・編集/中川駿 製作/中川組 配給/株式会社SDP 2016年/日本/39分

前回の「子育て・親育ちプロジェクト2018」活動報告 ー 親子のお片付け講座 (2018.12.15)

あなたはどうしたいですか？ あなたはどんな場所で過ごしたいですか？  
お片付けの極意とは、じっくり自分で自分を見つめること。答えは自分の中にあります。

- ①全体を捉えて、片付かない理由を考える
- ②どんな場所にしたいか、どうしたいか、とことん考える
- ③全部出して、必要なもの・好きなものを選ぶ
- ④4分類する 自分なりの4分類でOK
- ⑤決めた置き場所場所を守る工夫をする

あなたの「もの」は世界に繋がっています。長く・ずっと使えるものを選んで、捨てるものを減らすのも、地球のために大切なことです。

Vol.2 徳島お片付けラボ・竹内真理さんの  
親子のお片づけ講座 ～お片付けから見ること～ (2018.12.15)

特別講義：坂本有芳さんの「お片付けから消費生活を見直す」

場所や空間、そしてお金にも限りがあります。よく考えず簡単に手に入れた物によって、あなたの大切な空間が、ただ物ため込むだけの場所になっていませんか？

- ・片付けの第一歩は、しまう場所 > しまう物 が成立していること
- ・使わないものを買ってしまい捨てる(=失敗)を、学びに繋げ成長しよう
- ・自分にとって価値あるものをよく考えて選び、大切にしよう

あなたがお金を払って物を買って生活すること(消費活動)で、社会は変わります。どんな物を作る会社や人を応援したいですか？  
しっかり「自分のものさし」で予算を立てて考えましょう。



鳴門教育大学 准教授 坂本有芳さん



徳島お片付けラボ  
ライフオーガナイザー  
竹内真理さん

↓お片付けの実例写真 (Before/After) に「わー、すごい」「おー」と声が上がります



← 筆箱の中身を4分類するワーク。4色のシートを敷いて、筆箱の中身を全部出して、よく考えて分類します。

↑ 参加者からの質問のひとつひとつについていかに答えていただきました。



片付けは苦手だと思っていたけど、自分が好きな部屋にするならわたしにもできそうな気がしてきた！

これまで「どれ捨てる？」と聞いていましたが、相手が身構えてしまう聞き方だったと気づいて目から鱗です！

